O2-026

コロナによる中学生メンタルヘルスへの影響と予防のための提言 —とくに女子生徒の情緒不安の悪化と希死念慮率の増加—

梅本 正和¹、駒田 幹彦²、大橋 浩³、二井 栄⁴

¹うめもとこどもクリニック、

²駒田医院、

³国立病院機構三重病院、

⁴三重県医師会

H24年度からR2年までの9年間に、三重県の13歳の自殺は5例であった。R3の13歳の自殺は1年間で4例と急増した。警視庁自殺統計による成人を含めた日本人の自殺は、H23より徐々に減少してきたが、R2に増加に転じた。これは女性の増加によるものだけであった。

H16より、三重県医師会と三重県教育委員会の協働で、学校メンタルヘルス事業を行ってきた。児童・生徒への155項目のアンケート方式で行い、①QUテスト ②クーパースミスの自尊感情テスト ③健康度リスクチェック（不安・抑うつ）の3つを使用した。R3からは生徒が学校で使用しているタブレット端末を用い、セキュリティの高いアプリで回答・集計を行っている。

結果：中学1年生の健康度リスク点数（0 - 110点）はH24からR2まで10点前後であった。R3の中学校1年のメンタルリスクの点数は27点と増加した。希死念慮は従来中学生は平均10%であったが、R3は中学1年男子18%、女子40%と悪化した。縦断的データで、中学3年生は、中1よりリスク点数、希死念慮ともに悪化することもわかった。

メンタルヘルスについて学校での教師との会議を重ね、コロナによる影響として、とくに女子生徒はリアルなコミュニケーションの制約が大きいのではないかと思われた。クラブ活動の制約や、授業形式の変化（スクール形式だけとなり、机をコの字形式にした「学びあいの共同体授業」がなくなった）ことによるものである。コロナにより、男は認知機能、女は情緒機能に影響がみられる傾向も示唆された。

行政への提言としては下記を行った。生徒の精神的健康度のかさ上げを目標とするならば、メンタルヘルスの視点から、児童・生徒を見ることが大切である。学年や授業目標の設定、担任などへの指導にもメンタルヘルスの活用をお願いしたい。特に女子には必要であると思われる。